

# 保健環境センターだより

平成25年8月5日

No.8

## 栃木県保健環境センター



湯ノ湖水生植物調査(湖岸)

### クアルテット

### 栃木県保健環境センター 参事兼所長 今井 清人

本年4月に定期異動によりまして、17年ぶりに保健環境センターに着任いたしました。着任して、早くも4ヶ月を過ぎてしまい、ご挨拶が遅れたことをお詫び申し上げます。

当センターは、平成8年4月に当時の衛生研究所と公害研究所を統合して、本県の公衆衛生の試験検査、研究の拠点として発足いたしました。業務内容につきましては、主なものとして、インフルエンザ、風しんをはじめとした感染症の検査、流通食品中の添加物、残留農薬、細菌等の検査、医薬品等の検査、廃棄物等の検査、湖沼、河川、地下水などの検査、大気中の有害物質等の検査、さらに、大気、食品などの放射能検査及びそれらに付随する調査研究、情報提供を行っています。

冒頭に掲げておりますクアルテットは、当センターの業務が「迅速で精度の高い検査」「ニーズを踏まえた調査研究」「積極的な技術指導」「幅広い情報提供」の4つのコンセプトを調和させて奏でるようにとの想いから吉沢元所長が命名したものです。

この中でも、皆様とのつながりの大きい部分は、情報提供にあると思います。

二年半前の福島原子力発電所事故による放射能汚染に際しては、私は行政部門で、県内の放射能の状況の測定・

情報提供などを担当していました。当時、放射能を監督すべき国も混乱して、情報もほとんどなく、シーベルト、ベクレル、グレイなどの放射能の単位もわかりにくく、基準も明確でなく、その影響もどの程度のものなのかわからない状況でありました。このため、県民の皆さんに向けて、可能な限り迅速に空間放射線量等の情報を公表しておりましたが、そのことが県民の安全・安心につながったのか、どうか不安な思いが残っています。

この思いから、当センター業務の中で、県民の皆様が知っておいてほしい、知りたい情報等について把握しながら、わかりやすく、正確にそして迅速に提供して参りたいと考えております。

皆様にも、化学物質、有害物質、放射能等の身の回りの疑問や不安を「調べる、理解する、対応する。」といったリスクコミュニケーションの考えを頭において、冷静に行動していただきますとともに、私たちも、わかりやすい情報提供を心がけて努力しますのでよろしく御協力お願いいたします。

皆様には、夏特有の熱中症、感染症、食中毒、光化学スモッグなどにお気をつけて、夏を楽しくお過ごしいただければと思います。

#### 本号の内容

クアルテット	今井所長	1ページ	湯ノ湖水生植物の植生調査	2ページ	最終処分場の奥深くを探る	3ページ
本県のレジオネラ汚染実態と殺菌		2ページ	ストップ風しん	3ページ	公開ターから・センターH.P.について	4ページ